

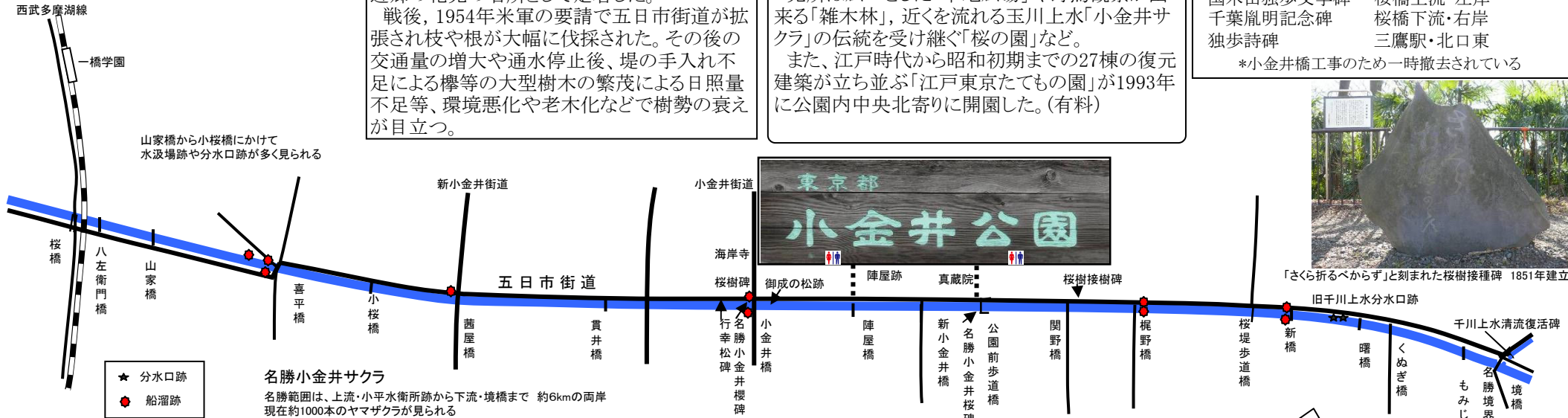
散歩ガイドマップ 上流部

一橋学園駅から境橋

一橋駅から境橋まで約5.8キロ
境橋から三鷹駅まで約2.3キロ

喜平橋から境橋までの五日市街道には中央線、西武線各駅へのバス停あり

このコースは途中トイレが少ないので注意
(小金井公園、桜橋脇、西久保公園内にあり)



小金井サクラ

1737年に武蔵野新田世話役・川崎平右衛門定孝の命により大和・吉野山、常陸・桜川等から多品種のヤマザクラの苗を取り寄せ、小金井橋を中心に兩岸の上下6キロにわたり、沿岸の村人に堤に植えさせた。

江戸時代から花見の名所となっていたが、1916年東大の三好博士の調査で38品種3亜種が確認され学術的に貴重な存在と認定された。1924年には名勝に指定され、花見の時期は鉄道の臨時停車場が設けられるなど、東京近郷の花見の名所として定着した。

戦後、1954年米軍の要請で五日市街道が拡張され枝や根が大幅に伐採された。その後の交通量の増大や通水停止後、堤の手入れ不足による樗等の大型樹木の繁茂による日照量不足等、環境悪化や老木化などで樹勢の衰えが目立つ。

小金井公園

小金井公園のものは1940年東京府が紀元2600年記念事業という名目で砧、神代、小金井、舎人、水元、篠崎の6箇所1箇所100ha以上という緑地を造成するとの「大緑地計画」であった。

戦後の農地開放などで取得した土地の4割を失ったが1954年都立公園として開園された。公園東側には今でも入り組んだ民有地が残る。

現在の開園面積は75.2haで日比谷公園の4.6倍、上野公園の1.4倍の広さで都立公園では最大規模である。

見所は広々とした「草地広場」や野鳥観察が出来る「雑木林」、近くを流れる玉川上水「小金井サクラ」の伝統を受け継ぐ「桜の園」など。

また、江戸時代から昭和初期までの27棟の復元建築が立ち並ぶ「江戸東京たても園」が1993年に公園内中央北寄りに開園した。(有料)

石碑めぐり

この区間にある主な石碑

小金井櫻樹碑	海岸寺門前
行幸松碑	小金井橋やや上流・左岸
名勝小金井櫻碑*	小金井橋上流・左岸
名勝小金井桜碑	公園前歩道橋・右岸
川崎平右衛門供養塔	真蔵院境内
桜樹接樹碑	関野橋やや下流・左岸
名勝境界石	境橋上流・両岸
玉川上水の碑	境橋下流・左岸
千川上水清流復活碑	境橋下流・左岸
独活の碑	うど橋上流・左岸
国木田独歩文学碑	桜橋上流・左岸
千葉胤明記念碑	桜橋下流・右岸
独歩詩碑	三鷹駅・北口東

*小金井橋工事のため一時撤去されている



「さくら折るべからず」と刻まれた桜樹接樹碑 1851年建立

分水口・水汲み場跡

山家橋から小桜橋付近までの左岸を歩くと堤が波型にえぐれたり、凹凸が多いのが目に付く。これは分水口跡や水汲場、船溜などの名残りである。

明治初期の分水口改正までここには大沼田新田分水、野中新田分水、田無村分水、鈴木新田分水、関野新田分水等の分水口が上水堤に掘られていた。

分水口は木製の樋を堤に埋め込むため、10年から20年ごとに掘り出し取替え(伏せ替え)られた。時には上流側への移設も行われた。廃止後は埋め戻された。

水汲場は上水から直接呑み水を汲み上げた場所。上水沿い各地に見られたがこの山家地区には江戸期から16箇所があった。当初は黙認されていたようであるが明治期になり汚染を理由に取り壊すよう再三指示された。

1878年に5箇所が棧橋等設備を整える条件で正式に許可されたが、2年後には廃止届が出されている。(許可後の水汲み場水賦金は1箇所あたり年1円)

クリシマツツジ

貫井橋から陣屋橋付近までの上水堤の両岸にツツジの老木が目につく。

これは1914年ごろ小平・小金井両村の有志により植えられたクリシマツツジ。現在でもその多くが残り、一部見事な開花も見られるが、多くは樗などの日陰になり、サクラと同様に元気がないのが残念。

ガクアジサイ

小金井橋から関野橋にかけての上水左岸、五日市街道沿いに多くの「ガクアジサイ」が植えられている。これは衰退する小金井サクラを補うため、地元の緑の監視員が1976年に植えた。

このあじさいの苗木は、1969年に小金井から贈られた桜の苗木のお礼として、三宅島から贈られたとされる。

旧小金井橋最後の雄姿

小金井橋の架替が終了、1930年に架けられたレンガアーチ橋は今は無い。(2007年2月撮影)



旧千川分水口跡

曙橋のやや上流左岸に1966年まで使われた千川上水分水口の分水堤やゲート巻揚機などが残されている。これよりさらに上流側にもう一箇所、明治期に復活した千川水道(株)の埋もれた分水堤と巻揚機が残る。



散歩ガイドマップ 下流部

境橋から三鷹駅

境水衛所跡と千川上水

境水衛所は1894年に上水路の管理のため他の7箇所の水衛所とともに設置された。1966年には上流にあった千川上水の分水口が構内に移された。1980年に水衛所は廃止された。

千川上水は1696年、5代将軍綱吉の白山など4箇所の「御成り御殿」へ上水を送るため開削された。多くの変遷を経て、1971年北区王子の大蔵省印刷局への送水停止を以って使命を終えた。

1989年清流復活事業により、一部区間玉川上水からの処理水が流れる。

みどり橋跡と引込み線跡

みどり橋は境浄水場建設の時、武蔵境駅から浄水場まで東京市水道局境浄水場線が敷かれた。浄水場建設資材やろ過用の砂の運搬に利用されていた。廃線後この鉄橋跡に木製のみどり橋が架けられていたが、老朽化により現在は撤去されている。線路敷きの一部が木村公園となっている。

また、戦前現在の武蔵野中央公園付近にあった軍需工場へ物資運搬専用線が引かれた。戦後、1951年まで工場跡に造られたグランドへの競技場線に転用された。廃線後グリンパーク遊歩道、堀合遊歩道として整備されている。

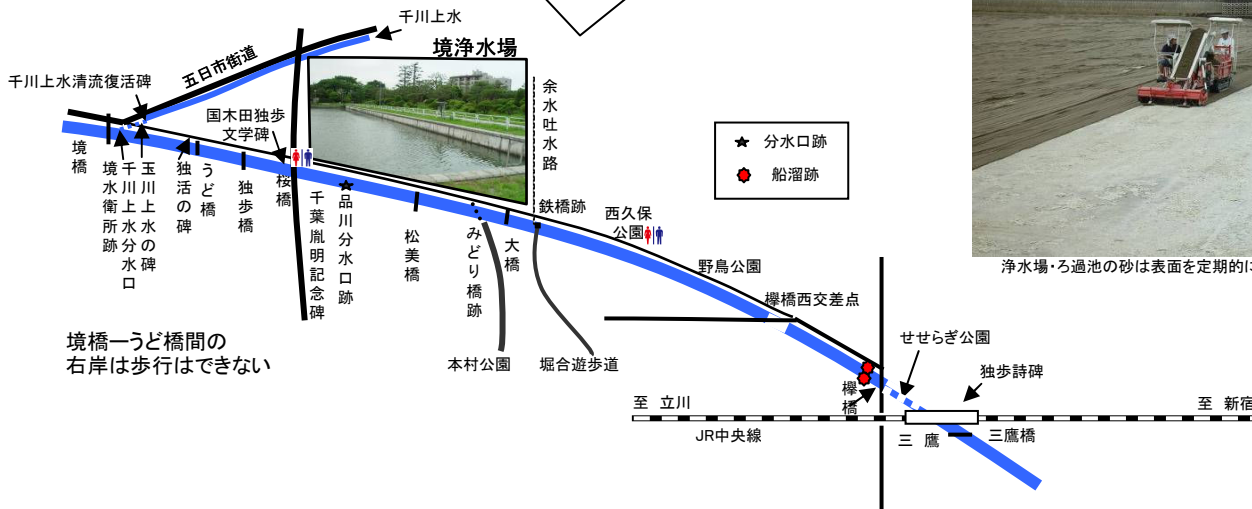
浄水場東側の余水吐水路と線路跡は近日都道の建設が予定されている。

境浄水場

用地面積は約21万㎡(約6万坪)・ろ過池20。1918年に着工、6年後に完成、続いて1931年から3年がかりで2期工事が行われた。

村山・山口貯水池(多摩湖・狭山湖)から地下導水管により自然流下式で導かれた多摩川の原水を緩速ろ過法で浄水、和田堀給水所へ送られる。施設能力は一日当たり31.5万立方mで東京都全体の約4.5%を占める。村山・山口湖からの原水導水路の上はサイクリングロードとして整備され、広く利用されている。

境浄水場から玉川上水路への余水吐口がいくつか見られる。1965年の通水停止後も三田用水へ通水のため、9年間境浄水場から維持用水が恵比寿まで流され続けた。



浄水場・ろ過池の砂は表面を定期的に削り取り洗浄される

玉川上水ワンポイントガイド No. 13

散歩ガイド (一橋学園駅から三鷹駅)



品川分水と分水口跡

品川分水は1669年、品川領内の9つの村や宿に農業用水として開削されたといわれる。1948年に通水を停止した。



大橋

1788年ごろ記された上水記に「保谷橋・境新田石橋共云」とその名があり、歴史ある古い橋。今の橋は1932年に架けられ、1999年には大幅な改修工事が行われている。

大橋を通る大師道は狭い道であるが南へは深大寺、甲州街道・調布五宿に続き、また西北方向は田無を経て青梅街道や所沢街道へ続く便道であった。

1918年境浄水場の建設で大師道が分断され、この橋の意義が著しく低下した。なお、上水記では下流にある櫛橋を「大橋」としている。

三鷹駅とせせらぎ公園

JR中央線は1889年甲武鉄道として開通、三鷹駅は1930年に開業した。玉川上水は駅北側を開渠で流れ、南側の三鷹橋へレンガ積みアーチ形のトンネルで斜めに線路下を横断した。この線路下のトンネルは現在も使われている。北側の水路はホームの延伸や立体化、北口の再開発などで段階的に暗渠化され、僅かに残った水路はホーム北側から見える。

櫛橋から三鷹駅までの玉川上水路は都道の拡幅などで暗渠化され、上部に人口のせせらぎが流され小橋が3つ架かる小公園となっている。

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

No	テーマ
1	玉川上水の概要
2	玉川上水の分水
3	玉川上水の分水・小平編
4	玉川上水と小平周辺の新田開発
5	玉川上水の橋
6	玉川上水の水車
7	玉川上水の通船・船溜り
8	玉川上水の樹木・野草・野鳥
9	玉川上水と小金井サクラ
10	玉川上水あれこれ
11	玉川上水お勧め散歩ガイド
12	玉川上水散歩ガイド 玉川上水駅から一橋学園駅
13	玉川上水散歩ガイド 一橋学園駅から三鷹駅

発行 No.13 2008年4月 No1~No12発行済

発行 小平・玉川上水再々発見の会
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
代表 庄司徳治